

寶文館版

えり子と
ともに

4

えり子とともに

第 4 部

¥ 150

昭和二十五年十月二十五日 印刷
昭和二十五年十一月一日 發行

著者 内村・直也
編者 日本放送協會

發行者 東京都中央區板町一ノ三
寶文館

代表者 大葉久治

印刷者 東京都新宿區山吹町三二
早坂善太郎

三惠社印刷所

發行所

東京都中央區板町一ノ三
株式會社 寶文館

振替口座東京二八〇
電話京番二五二五番

えり子とともに

第四部

三つの小夜曲



放送記録

企 劃 堀 江 史 朗
 演 出 永 山 弘
 演出助手 萩 原 良 太 郎
 音 樂 芥 川 也 寸 志
 シャンブル・
 ノ ネ ッ ト
 効 果 岩 淵 東 洋 男

放送年月日

昭和25年7月5日より9月
 27日迄、毎週水曜夜9時15
 分より9時45分迄、第1放
 送にて。

主な配役

河 村 え り 子	阿 里 道 子
〃 壯 太 郎	小 澤 榮
〃 良 介 (弟)	野 田 秀 男
し め の (ばあや)	渡 邊 富 美 子
響 佳 代 子	七 尾 伶 子
〃 春 夫	久 米 明
〃 健 兒	村 瀬 禪
太 田 朝 子 (伯母)	村 瀬 幸 子
近 山 厳 (叔父)	松 本 克 平
園 部 夫 人	堀 越 節 子
〃 芳 郎	臼 井 正 明
栗 本 操 (友)	加 藤 玉 枝
春江 (料亭松村の主人)	杉 村 春 子

目次

家庭會議	一
麥藁帽子	七
あでやかな客	三
蟬のなく日	五
白い封筒	七
狩人	八

濱邊にて……………九

退屈の果……………二七

約束のもの……………二五

北へ發つ朝……………一五

三つの小夜曲……………一六

健兒の病氣……………一八

秋のこの美しい夜に……………二〇

あとがき……………二九

家庭會議

えり子とともに 第三十八回

誰が言つたのかしら、愛の聖殿が幸福の祝祭が
蜃氣樓のように消えてしまう？

この夜の圓卓の上の明りの家庭的な光の名に

於いて誰もが顔を輝かせて

希望の優しさの思い出の名に於いて語るとしたら

——えり子——

えり子 壯太郎 佳代子 良介 しまの 近山殿



テーマ音楽。

しめの えり子 お嬢さま、今夜のお獻立は、何か特別にいたし
ますようか。

えり子 そうね、折角良ちやんが、北海道から歸つて來たんだ
から、良ちやんの好きなものにしましょうよ。

しめの お坊つちやまはね、いつも何んでもいいよ、つて仰有
いますけど、本當は御馳走がお好きなんです。お肉で
したらビーフステーキの餘り焼き過ぎないのですね。お
魚でしたら、おさしみは餘りお好きじやありませんね、
骨のないのを、フライにしたのか、中華料理みたいに
あげましたのね、それにアンをかけまして……。

えり子 お野菜は、良ちやん、喰べたかしら？
しめの かほちやはお嫌いですよ、どんなお料理にしても召上

つて下さいませんものね。……サラダですね、それも果
物を入れれば、尙更お好きのようですよ。

えり子 ばあやさん、よく覚えてるわね。

しめの そりやお嬢さま、よく召上つて下さつたものは、覚え
ておりますよ……お残しになつたものも、よく覚えてお
りますよ。(笑う)……あゝ、そう／＼、とうもろこし
のスープが大のお好きでしたよ。あれを作りましょう、
あれを。

えり子 いつだつたか、なめこととおとうふのおみおつけを、何
杯もおかわりしたわね、良ちやん。

しめの いくらお好きでも、スープとおみおつけと兩方は……
えり子 そうね、それじや、おみおつけと、お魚は明日にした
ら？

しめの はい、そういたしましたしう。それに、お好きなおいも
や何かをつけ合わせれば充分でございますよ。……
えり子 あら、お姉さま。久し振りね。(佳代子が玄關から入
つてくるのを目にとめた感じ)

佳代子

(オフより入つてきて) えりちゃん、えりちゃん、な

によ、急に電報くれたりして?

えり子

お姉さま、なんだとお思ひになる?

佳代子

「ユウシヨクニオイデクダサイ チチ」つて電報でし

よう。宛名はあたしになつてるけど、一體、なんでお夕食を御馳走して下さるのか分らないじゃないの。あなたが書いたんでしょう。こんなまずい電報。

えり子

打ちに行つたのは、あたくしだけど、考えたのはお父

さまよ。

佳代子

お父さまが……

えり子

ええ、随分お考えになつたのよ。……

佳代子

何を考えることがあるつて言うの?

えり子

お姉さまと、春夫お兄さまのことよ。

佳代子

それがどうしたの?

えり子

若しも、その後うまく行つてゐるようだったら、屹度

佳代子のことだから、健兒も連れて三人で来るだろう。

若しも、相變らず、やり合つてゐるんだつたら、健兒と

二人で来るだろう……お父さまつたら、そんなこと言つ

てらつしやつたわ。

佳代子

あたし、なんのことかさつぱり分らないから、健兒を

残して一人で來たわ。

えり子

それで、お兄さま、なんて仰有つて?

佳代子

なんにも言いやしないわ。……あたしも口をきかない

から……。

えり子

お父さまはね、佳代子も呼んでやつて、久し振りでみ

んなでゆつくり飯を喰うことにしよう、良ちゃんも來た

んだしするからつて……。

佳代子

あら、良ちゃんが? 何處にゐるのよ……(オフ・マ

イクになつて) 早く言つてくれればいいのに……。

えり子

お姉さま、待つて、待つて……良ちゃんね、今朝着い

てお食事を喰べて未だ寢てゐるのよ。

佳代子

もう四時半じゃないの。そろそろ起したほうがよかな

い?

えり子

くたびれてゐるらしいわ。何度のぞきに行つても、グウ

グウ眠つてゐるの。

佳代子

あの人つて、ほんとにいつまでも呑氣坊主なのね、苦勞つてことを全然識らないんだわ。

えり子

今朝着いた時ね、なんだか一杯つまつてゐる重そうなりユツクを背負つてきたのよ、「お土産」！ つて、あた

佳代子

くしに出すから、なんだろうつて、開けて見たら……

えり子

洗濯ばかりだつたんじやないの？
(笑つて) そうなのよ、シャツでもパンツでも、シーツでも、とつても汚いのが、あとから…… (笑い轉

げる)

えり子

(笑いやんで) ばあやさんたらね、それを見て、涙出してるの、可哀そうだつて……。

佳代子

……男つてみんなそうね、自分のことつてなんにもしないで、すましていられるんですものね。……あたし、良ちゃんの處へお手傳いに行つてやろうかな、机の上なんかも、屹度、散らかしつばなしになつてゐるに違いないわ。

えり子

お姉さま、ほんとに行つてらつしやつたら？

佳代子

あのボブラの並木、もう一度見たいわ。いまごろはいでしようね。……でもやめところ、うるさい姉さんが來たなんて、厭がられるだけ損だから……。良ちゃんて戀人ないのかしら？

えり子

さあ、知らない。……お姉さま、訊いてごらんになつたらいいわ。

佳代子

あの人だつて、數え年でもう廿才はたちでしょう、遠くに一人で離れてるんだから、戀人の一人ぐらい作つてゐるかも分らないのよ。

えり子

……(笑いながら) お姉さま、そんな人があつたら、お洗濯ぐらいして貰つてやしないの？

佳代子

戀人なんて、えりちゃん、そんなドメスティックなことをするもんじやないわ。女は戀人のうちだけよ、シヤンとしていられるのは……。

えり子

でも、良ちゃんには好きな人なんかいる筈がないわ。
佳代子
あら、どうして？

えり子　いくら良ちゃんだつて、そうなれば、もう少しシヤレ

つ氣が出るわ、乾度。

佳代子　それもそうだけど……汚いところに却つて魅力を感じ
るつて傾向も近頃はあるのよ。坂崎俊吉なんて人はお金
持になつて、綺麗な恰好をするようになったら、急に人
氣がなくなつてしまつたんですものね。

えり子　坂崎俊吉つて、誰あれ？

佳代子　新劇俳優よ、最近映画によく出る。

えり子　お姉さまつて……

佳代子　えりちゃんつて……

（同時に）

佳代子　お姉さまつて、何よ！

えり子　お姉さまが先に仰有つたら？……、えりちゃんて……

佳代子　えりちゃんの言おうとしたことぐらい、ちゃんと分つ
てるわ。「お姉さまつて、相變らず映画ばかり見ていら

つしやるのね」でしよう。

えり子　それじゃ、あたくしもお姉さまが言おうとなさつたこ

と、あててみましょうか……「えりちゃんて、なんにも

知らないのね」（笑う）

佳代子　（笑いながら）こんなによく分つてれば、言う必要な

いわね。

えり子　……お姉さま、お姉さま。

佳代子　何よ。

えり子　お姉さまと、お兄さまも、言ふ必要のないこと、始終

仰有つてたんじやないのかしら？

佳代子　……そうよ、確かにえりちゃんの仰有る通りだつたの

よ。……だから、あたくし達は、もうやめたの、口をき

くことは……。

えり子　それでお姉さまは、どうなさるおつもりなの？

佳代子　どうもしないわ。別れようて、はつきりきめたんだか

ら、あとは、あの人がどうにかするでしようよ。

えり子　まあ！ 健ちゃんはどうなさるおつもり？

佳代子　健児のことについても、あの人、乾度考えてるだろう

と思うのよ。

えり子　お姉さまそれで平氣なの？

佳代子

だつて、もう口をきかないことにしてしまつたんだから、相談の仕様もないわね。

えり子

口をきかないつて……健ちゃんとはお喋りなさるんでしよう？

佳代子

(笑つて) 勿論よ。……健兒は、春夫さんと喋つたり、あたしと喋つたりしてゐるわ。

えり子

變ね！

佳代子

變ねつて言つても、どうにも仕様がななんですもの。

えり子

口をきかない人が、二人、同じ家の中に住んでゐるなんて、そんなおかしい生活つて、あたくしにはどうして

も考えられないわ。

佳代子

案外、氣樂でいゝものよ。

えり子

だつて、お食事の時なんか困るでしよう？

佳代子

別に困りやしないわ。

えり子

別々になさるの？

佳代子

いえ、一緒にするわ。……黙つて、御飯をついで出すと、新聞か何か讀みながら、黙つて喰へてゐるわ。……

もうそろ／＼お茶でいい頃だろうと思つて、お茶にする
と、黙つて飲んで、立つて行つてしまふわ。……人間つ

て喋らなくなつても、結構なんとななるものよ。

えり子

でも、どうしても話さなければならぬことだつてあるでしよう？ 例えば、お兄様のお留守中にお客様が來

るとか……？

佳代子

そういう時は、紙に書いて机の上に乗せておくのよ。

……返事の必要なときだと、YESとかNOとか、行くとか、行かないとか書いた紙片かみきれが、あたしの鏡の前にちやんと乗つてゐるわ。……此の頃の方があたしは却つて氣

樂でいゝわ。何處へ行こうと、遅く歸ろうと、別に誰も

氣兼ねする人はないんですものね、二人とも留守にして

しまふような時には、健兒は、お隣りに行つて、お食事

も頂いて、あたしが迎えに行くまで、遊ばせて頂いてゐ

でしよう。こんなことなら、もつと早くこうなつてしま

うんだつたと、思つてゐるくらいよ。

えり子

お姉さま、あたくし、そんなの大嫌いだわ！ そんな

生活つて、人間の生活じゃないわ！

佳代子

だつて、春夫さんがなんとかするまでは、あたしとし

たら、こうしてゐるより仕様がないうですものね。

えり子

お姉さまは、春夫さんが春夫さんがつて仰有るけど、

そうなつてしまつたのは、お姉さまにも随分責任がある

じゃありませんか！

佳代子

責任はあるかも知らないわよ。でもこれから先、どう

處置するかつてことは、男のすることよ、春夫さんのす

ることなのよ。

えり子

あたくしはそうは思わないわ。……お姉さまだつて當

然お考えになつて、一日も早く、なんとかなさらないけれ

ば……

佳代子

だけどね、えりちゃん、女には經濟力つてものがない

でしょう。

えり子

それは昔の噺で、いまだつたら、女だつて充分働ける

世の中になつてゐるんですもの。

佳代子

そりやあたしだつて、働いてもいいと思つてゐるわ。……

……でもそれは、はつきり話がついてからのことよ。當分

は春夫さんが何とかしてくれる義務があるのよ。新憲法

を見ると、ちゃんとそういうことが書いてあるのよ。

えり子

お姉さま、お姉さまたちがお別れになるつてこと……

お父さまは賛成なさつたけど、あたくしは、今まではど

うしても厭だつたの。心の中では賛成出来なかつたの。

……だけど、今は違ふわ。はつきり申し上げますけど、

お姉さまのいましていらつしやることは、卑怯だと思ふ

わ。人間のすべきことじゃないと思ふわ。そんなお互

いに口をきかない生活なんて、動物よりも劣つてると思

ふわ。……それで間に合つてゐるし、却つて、吞氣でいい

つて仰有つたけど、それが若しも負け惜み^{おし}だけでなくつ

て本心から出た言葉だつたら、あたくしはお姉さまを輕

蔑します。お姉さまみたいな人を、姉に持つたことを、

羨すかしいと思います。お母さまは、屹度、お墓の中で

泣いてらつしやると思います。……（涙をふくんで精一

杯に）お姉さま、一日も早く離婚なさつて下さい！一

日も早く、お兄さまの家から、お出になつて下さい！

それがいま、お姉さまのしなければならぬことなんで

す！

佳代子

えりちゃん、えりちゃん！

えり子

あたくし、そんなお姉さまとは、もう口もきゝたくな

いわ。

佳代子

困つたえりちゃんだわね。……そんなにプリプリ怒つ

たつて……

良介

(オフ・マイクより) どうしたの？

佳代子

まあ、良ちゃん、久し振りだつたわね。……よく眠れ

て？……もうすっかり汽車の疲れはとれて？

良介

うん。……えり姉さん、どうしたんだい？

佳代子

いまね、怒らしちゃつたのよ。

良介

ふーん。近頃怒りん坊になつたのかな？

佳代子

そうじゃないのよ。あたしのことですっかり御機嫌を

損じてしまつて……

良介

怒ると、物すごいからな、ムキになつて……。

佳代子

えりちゃん、えりちゃん、折角良ちゃんが歸つて來た

つていうのに、あなたがそんなふうにしていやいけな

いわ。……ね、えりちゃん、あたしも、あなたに言われ

てみると、そうだなア、つて思ふこともあるのよ。よく

落着いて考え直してみるから……。

えり子

お姉さま、本當に考えてみて下さる？

佳代子

えゝ、考えるわ。……あたしだつて、あなたに輕蔑さ

れるのは悲しいわ。春夫さんとはあんなことになつてし

まう、あなたとも口をきかないじや、あたしは、本當に

誰ともお喋りする人なくなつてしまふんですものね。

えり子

考えて下さるんならゝわ。

良介

考えるとか、考えないとかつて、一體なんだい？

佳代子

えりちゃんから話、聞かなかつた？ あたしたちの家

のこと。

家のこと？……ドロボオでも入つたかな？

佳代子

そんなことじゃないのよ。

えり子

お姉さまがいらつしやつてからの方がいゝと思つて、

まだなんにも話してないの。

佳代子 あたしと春夫さんね、別れることになったのよ、良ち

やん。

良介

別れるつて？

佳代子

離婚よ。

良介

あゝ、よく新聞に出てる奴か！

佳代子

失禮ね、新聞に出てる奴か、とは。

良介

だつてよく出てるじゃないか、……暇で困る時には、

時々下宿で寝つ轉がつて、新聞を隅から隅まで讀むんだ

けど、大ていは性格が合わなかつたつていうんだね。

佳代子

あたし達の場合は、そんなじゃないの。

良介

ふーん。「夫婦とは契約で結ばれた他人に過ぎない」

つていうのもあつたな。

佳代子

ほかの人の眞似なんかしてるんじゃないのよ。もつと

宿命的なものがあるのよ。

良介

それじゃ姉さんは、何處か婦人雑誌に、夫への公開状

というのを書かなければいけないな。

佳代子

よして頂戴よ、良ちゃん。あたしは個人的な問題を、

世間に發表するなんて人の氣持が全然分らないわ。自分

の悲劇をまるで賣物にしてるみたいなんですものね。

えり子

良ちゃんね。あなた、眞面目に考えて頂戴。……いま

ね、このうちには、色んな問題があるのよ。お姉さまの

その話もあるし、それから、お父さまのこと、どうする

かつてこともあるし……あなたが來たら、みんなで話し

たいと思つてたの。

良介

お父さんがどうだつて？

えり子

良ちゃん、あなた、新しいお母さまが欲しいと思わな

い？

良介

そうだなア、思わないな。おふくろさんなんて、一人

いれば澤山だ。

えり子

そりや、あたくしたちだつて、みんなそうなのよ。で

もね、……お父さま、いまのまゝでいゝと思つて、良ち

やん。

良介

親父のことは、親父が考えるだろう。

えり子 そうはいかないのよ。……お父さまはね、あたし達の

ことばかり思つていらつしやつて、あたし達にとても遠慮してらつしやるの。だから、お父さまのことに就いては、みんなで本氣になつて考えて上げなければいけないんだわ。ねえ、お姉さま。

佳代子 あたしは、どうも被告の側らしくつて、今日はあんまり發言權がなさそうだけど、……

えり子 あら、そんなこと仰有つちや駄目だわ、お姉さま。

佳代子 なさそうだけど……それから先を聞いてくれなければいけないのよ。……あたしの問題は一應あたしの問題としておいて、お父さまについては、ねえ良ちゃん、此の際は非とも、新しいお母さまをお貰いなることをお奨めすべきだと思うの。その點ではえりちゃんと意見が完全に一致してるの。……お父さまはね、時々とても寂しそうにしてらつしやることがあるのよ。ちよつと良ちゃんなんかには分らないでしょうけれど……。

良介 僕には分りませんね、そんなむずかしい問題。

佳代子 それとね、こういうこともあるのよ。……いまのまゝ

でいたら、いつまでたつても、えりちゃんがお嫁に行けないつてこと……これも大問題なのよ。

えり子 あら、お姉さま、あたしのことなんか……

佳代子 えりちゃんだつて、年から行けば、もうそろそろ戀愛をしてもいいのよ、……あたしはつまらない戀愛をしてしまつたけど、えりちゃんには、どうしても素晴らしい戀愛をして貰いたいと思うわ。……そうなつたら、あたし側面から絶大なる援助を惜まないことよ。

良介 えり姉さん、戀愛するんだつたら、いまみたいに怒つちや駄目だぜ。

佳代子 あんたはそんな餘計なこと言わなくつてもいいの。

えり子 ねえ、良ちゃん、あたしのことなんかどうだつていいのよ。あなた、眞面目に考えて、お父さまのこと、どう思う？……三人共意見が一致すれば、お父さまに三人でお話してみましようよ。

良介 僕は別に不賛成じゃないけど、親父にそんな話するの